

明治四十一年四月十九日  
香奠帳

01111  
10-4  
P01111

③⑨ 香奠帳 (知事南部光臣ほか)

明治41年(1908)4月19日

この史料は、群馬県女子師範学校初代校長山高幾之丞やまたかいくのじょうの葬儀に際し作成された香奠帳です。当時の群馬県知事南部光臣や郡長福田伊八はぎわらみつとむのほか、女子師範学校の校医を務めていた萩原密蔵(萩原朔太郎の父)の名前も確認できます。明治30年代の小学校教員の初任給が8円から9円だったことを考えると、当時の1円は現在の2万円ほどの価値があったと思われます。名士の葬儀における香奠の相場が窺える興味深い史料です。

山高幾之丞関係文書 P01111 No.12-4

(前橋市)

③⑨ 香奠帳 (知事南部光臣ほか)

〔釈文〕

(表紙)

明治四十一年四月十九日  
香奠帳

一金三円也  
知事南部光臣君。  
一金壹円也  
郡長福田伊八君の  
校医萩原密蔵君。  
一金貳円也  
真下鶴吉君  
一金五拾銭也  
製糸業「染谷佐市郎君  
一蠟燭 貳箱  
一蠟燭 貳箱  
一蠟燭 壹箱  
大屋かつ君

一金三円也

知事 南部光臣君。

一金壹円也

郡長 福田伊八君、

一金壹円也

校医 萩原密蔵君、

一金貳円也

太田中学  
教諭 細谷資文君、

一金壹円也

○ 「真下鶴吉君

一金五拾銭也

製糸業 「染谷佐市郎君

一蠟燭 貳箱

○ 明治裁縫  
学校主 鈴木宗十郎君

一蠟燭 壹箱

大屋かつ君

(後略)